

学級活動指導案

令和元年 10 月 17 日（木） 5 校時（14:10～15:00） 第 2 学年 1 組～ 3 組 体育館
指導者 原 新、学年職員 6 名

1 題材名 「職場体験学習から学んだことを通してこれからの学校生活を考える」

2 題材観（生徒の実態を含む）

本題材は、中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説特別活動編における「学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ウ 主体的な進路の選択と将来設計」に関連するものである。

研究協力校では、キャリア教育推進委員会を中心に、キャリア教育推進のための環境整備と指導の充実に努めており、2 学年の特別活動や総合的な学習の時間に職場体験学習を関連付けている。対象生徒は、男子48名、女子60名、計108名の2 学年である。職場体験学習前の学級活動で行ったアンケートでは、「勉強や仕事の意味について自分なりの考えをもっている」「世の中には様々な働き方や生き方があることを理解している」と回答した生徒は共に90%を越えているにも関わらず、「将来の夢や目標をもっている」31%、「夢や目標に向かって努力している」53%など、自分なりの考えはもっているが将来の夢や目標に向けた行動に移せない生徒が多いことが分かった。一方で、「職業や働き方を学ぶ際の情報の調べ方を知っている」と回答した生徒が64%おり、進路実現のための情報活用能力を有する生徒が比較的多いことも分かった。

これらの実態を受け、職場体験学習に向けた学級活動として、事前学習では現在の自分を見つめ直し、自分のよさや強みについて他の生徒と認め合ったり、「働くこと」について考えたりする題材を設定した。事後指導に当たる本時は、職場体験学習を通して得たことを基に現在の生活を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、自己実現を図ろうとする態度を養う学級活動とする。生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、本題材を設定した。

3 研修との関わり

本研修では、赤城高原の北麓、標高約750メートルに位置する農業生産法人である有限会社「農園星ノ環」での農業体験を行っている。社員・パート・外国人技能実習生と共にレタス・小松菜・ホウレン草等、高原野菜の露地栽培と収穫、出荷を行っている。農業は、消費者の口に直接入る農作物を生産する産業であり、定植から収穫に至るまで、消費者のことを常に意識する必要がある。本研修で実際に体験しながら農業の重要性や責任の重大さを感じている。また、経営者の苦労や喜び、マネジメントの難しさと重要性を間近で見ることができている。さらに、農場で働く外国人技能実習生の職業観・勤労観に触れることができ、大変貴重な体験となっている。

本研修で学んでいることや気付いたこと、農業に関する職業事情などを生徒に伝えることで、学びと社会生活のつながりを認識させ、新たな学びの動機付けにつなげたい。また、年齢の近い外国人技能実習生のキャリア形成の実態を目の当たりにして、生徒が職業を将来の自分と関連付けて考えられるようになり、より前向きに今後の進路について考える契機となるよう本時を展開する。

4 指導方針

- (1) 各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実を図るため、職場体験学習の内容に関連する総合的な学習の時間、道徳の授業に参加し、要としての学級活動に有機的につなげる。
- (2) 職場体験学習で得られた経験を基に、生徒が自分の長所や課題を自分の言葉で記述できるよう、事業所単位で班を編制し、学年主任、研修主任、各学級担任等と連携して班活動を支援する。
- (3) 研修先企業の様々な取組、経営者の考えや従業員の働くことに対する考え等を紹介し、生徒の自己実現や今後の学校生活の改善につながるようにする。
- (4) 振り返りでは、職場体験学習での学びと本時の学習内容を基に、生徒自身が自己の変容に気付くことができるように指導する。

5 評価規準（事前の活動→本時の活動→事後の活動）

評価規準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度		
	集団の一員としての 思考・判断・実践	職場体験学習の経験を基に、将来像と照らし合わせながら今後の学校生活の在り方を考え、生活目標を設定し、その目標に向かって主体的に行動している。	
	集団活動や生活につ いての知識・理解		
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事前の活動		・自他のよい面に目を向けて目標を考えることができる。	・自己のもつよさに気づき、職場体験学習に向けた自分なりの目標を考える。
本時の活動		・自己実現に向けた学校生活を送るために、職場体験学習の経験を基に、今後の学校生活の在り方を将来像と照らし合わせて考え、生活目標を設定している。	・職場体験学習での目標の達成度合いを確認する。 ・自己実現に向け、これからの学校生活における生活の仕方を考える。
事後の活動		・学校生活において、自己の生活目標を意識し、主体的に行動している。	・アンケートによる振り返りから、自己の成長を感じる。

6 本時の学習指導

- (1) **目 標** 職場体験学習を基に、現在の生活を振り返るとともに自己実現を図るための学校生活の在り方を考える。
- (2) **準 備** 【教員】長期社会体験研修紹介資料、事前アンケート、付箋紙、ワークシート
【生徒】事前アンケート、筆記用具
- (3) **展 開**

○学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	・指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)
<p><つかむ></p> <p>○職場体験学習後のアンケートの結果を基に、自己課題を明確にする。</p> <p>—予想される生徒の反応—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習では目標を達成することができたのだろうか。 ・他の人はどのような気持ちで職場体験学習を行ってきたのだろうか。 ・職場体験学習と自分の将来がどのように結び付いたのかな。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習を終えて、生徒の意識を全体で共有できるよう提示資料を使って示す。 ・アンケートの結果から、見えてくる課題や他者の思いを自分のこととして捉えさせる。

<p>○本時のめあてをつかむ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「本時のめあて」を提示し、授業における方向性を意識させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 職場体験学習での経験から、今後の学校生活の過ごし方を考えよう。</p> </div>		
<p><さぐる></p> <p>○職場体験学習での気付きについて、意見を出し合い、交換する。</p> <p>○同一の体験場所で班を作り、職場体験学習での気付きについて意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習の中で <ol style="list-style-type: none"> ①自分の伸ばせたこと ②仕事を行う上で新しく発見したこと ③事業所で働く人の姿から見習いたいと思ったこと ①～③を、事前に付箋紙に記入しておき、用紙に貼り出していく。 <p>—予想される生徒の反応—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返事や挨拶の声が大きかった。 ・みんな笑顔が働いていた。 ・自分はキビキビと動けた。 <p>○班の意見を、まとめて分類する。班長が中心となり、メンバーの意見を聞き、作業を指示しながら分類をする。</p> <p>—予想される生徒の反応—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人も同じことに気付いていたな。 ・集まった意見は重要なのかな。 ・職場体験学習を通して、こんなところを伸ばせた人がいるのだな。 <p>○農園星ノ環で働く若年の外国人技能実習生（インドネシア）の働き方から、「感心したこと」「驚いたこと」などの気付き、これからの生き方のヒントになることを付箋紙（黄）に記入する。</p> <p>—予想される生徒の反応—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いときから外国で働くなんてすごい。目標がはっきりしているから行動できるのだな。 ・今の苦労は、後の人生を豊かにしている。嫌なことや苦しいことがあっても自分のためだと思って行うことが大切だ。 ・人生の目標が決まっていて、実現に向けて努力しているのはすごい。自分の人生に見通しをもって生きる必要があるな。 	<p>5分</p> <p>7分</p> <p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが声にして発表しながら付箋紙を貼り出すようにすることで、他のメンバーの気付きに注目できるようにする。 ・体験事業所の班長に進行をさせる。 ◎班長を中心とした班活動が行われていない場合は、学年職員と連携して活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「他人との接し方」や「仕事の内容」に関することなどに大きく分類したり、「挨拶」「笑顔」「声」など細分化したりして、意見を整理させる。 ・個人目標の設定材料を抽出しやすくする。 ・分類された付箋紙は、分類名を付けて用紙上でまとめ、ペンで囲むように指示する。 ◎分類作業が進まない班には、学年職員と連携して話合いの支援をする（世話係として受け持った事業所の学年職員が担当）。 <ul style="list-style-type: none"> ・農園星ノ環で働く外国人技能実習生の様子をスライドで紹介する。仕事に対する姿勢や仕事に対する考え方について、外国人技能実習生へのインタビューから得た内容を伝える。 ・農場で働く外国人技能実習生の働き方を紹介し、自分が職場体験に臨んだ姿勢、今現在の仕事に対する考え方について対比させる。 ・目標をもって生活すること、努力を積み重ねることで自己実現が可能となることに気付くようにする。

<p>○農園星ノ環で働く若年の外国人技能実習生（インドネシア）の紹介から、「働き方での気付き」を付箋紙に記入し、分類に追加する。</p> <p>○班ごとに分類した結果を発表する。 —発表の例— 私たちの班では、○○と○○に分類される意見が多かった。また、○○といったことに気付けた人もいた。</p>	<p>3分</p> <p>6分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見と自分の意見の違いに気付けるよう、付箋紙を貼り出すときには、声に出して発表させる。 ・今までの分類に追加できないものは、新たな分類としてまとめさせる。 ・他の班に向けて発表させ、業種の違う班で出された意見について理解できようにする。 ・発表の仕方の例を示し、発表の要点を絞らせて時間の短縮を図る。 ・発表は副班長など、班長とは別の生徒に行わせるようにする。 ・発表が円滑に進行できるように、学年職員と連携して各班を支援する。
<p><見付ける></p> <p>○教師の企業研修で得た経験を聞いた後、ここまでの活動の中から、自分の課題を見付ける。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習での気付きを今後の学校生活に取り入れることで、自分の人生がどのように変わるのかを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・職場体験学習で得た気付きや各班から出された意見は、生徒の自己実現や将来の仕事に対する考え方につながることを理解させる。
<p><決める></p> <p>○教師の話に基づき、ワークシートに記入した内容を見直し、今後の中学校生活をどのように過ごせばよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日からの生活目標」をワークシートに記入する。 <p>・本時の感想を記入する。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の気付き、明日から意識して行動できる生活目標を考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・将来の自分は、中学校生活を含めた延長であることを意識させ、これからの過ごし方を考えられるようにする。 ・職場体験学習での気付きと自分の描く将来像、これからの学校生活を結び付けて考える。 （キャリアプランニング能力） <p>◇自己実現に向けた学校生活を送るために、職場体験学習の経験を基に、今後の学校生活の在り方を将来像と照らし合わせて考え、生活目標を設定している。（観察・ワークシート）</p>